

平成 27 年 1 月の解説（府県天気予報）

【1 月の天候状況】

上旬は、3 日にかけて強い冬型の気圧配置となり、日本付近には強い寒気が流れ込みました。このため、全国的に気温が平年を大幅に下回り、北・東・西日本日本海側では大雪となりました。西日本では雪雲が太平洋にも流れこんで各地で積雪となりました。その後冬型の気圧配置は緩みましたが、6 日には低気圧が本州付近を通過し太平洋側でも天気が崩れ、7 日以降は冬型の気圧配置となり、日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、太平洋側では晴れの日が多くなりました。

中旬は、旬のはじめに冬型の気圧配置となりましたが、14 日から 15 日にかけて低気圧が本州南岸沿いを発達しながら東へ進んだため、全国的に天気が崩れました。その後は、低気圧が日本海を短い周期で通過しました。このため、日本海側では曇りや雪または雨の日が多くなりましたが、寒気の南下は一時的で、降雪量は山沿いや北海道の一部で平年を上回ったものの、平地では平年を下回りました。

下旬は、低気圧が数日の周期で本州付近を通過しました。このため、日本海側では曇りや雪または雨の日が多くなりましたが、降雪量は少なくなりました。また、太平洋側では晴れの日が少なくなりました。26 日から 27 日の低気圧の通過時は、日本付近に暖かい空気が流れ込み、北・東・西日本の気温は平年を大幅に上回りました。30 日は低気圧が本州南岸沿いを北東進したため、ほぼ全国的に雨または雪となりました。東北太平洋側や関東甲信地方では雪のところが多くなり、宮城県や福島県では大雪となったところがありました。

月平均気温は、北・東・西日本で高く、沖縄・奄美で平年並となりました。月降水量は、西日本太平洋側でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側で多くなりました。一方、沖縄・奄美でかなり少なく、北日本日本海側で少なくなりました。4 地点で、1 月の月降水量の少ない方からの 1 位を更新しました。月間日照時間は、東日本日本海側でかなり少なくなりました。降雪の深さ月合計は、北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と東・西日本日本海側で少なくなりました。一方、西日本太平洋側では多くなりました。月最深積雪は、北日本日本海側と東日本の太平洋側の一部で平年を上回ったところが多くなりました。

【1 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 4 ポイント高い 86%で、明後日予報は例年値より 3 ポイント高い 83%でした。各地方の適中率では、明日予報は、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で 10～12 ポイント高くなりました。明後日予報の適中率もこれらの 3 地方で 11～15 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3℃小さい 1.2℃となりました。全ての地方で予報誤差が例年値以下となり、特に東海地方では 0.5℃小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2℃小さい 1.4℃となりました。全ての地方で予報誤差が例年値より小さくなりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3 月の天気予報の利用にあたって】

高気圧と低気圧が交互に通過して、数日の周期で天気が変わることが多くなり、気温の変動が大きくなります。また、低気圧が急速に発達して通る際の「春の嵐」には突風や強風に注意が必要です。最新の天気や気温の予報を利用して、災害の防止や健康管理等に役立ててください。